



高等部 全校授業研究会実施

高等部1年生活単元学習で全校授業研究会が行われました。今回も県外からのオンデマンド参加者を中心に30名の参加がありました。当日の全校授業研究会の様子についてお伝えします。

高等部1年生活単元学習

<未来へのスケッチ×授業づくりのつながり>

「未来へのスケッチ」の作成にあたり、卒業後の目指す姿を聞き取ると、保育士や介護士などの具体的な職業を挙げる生徒や、「優しい人になりたい」「頼られる人になりたい」という思いを伝える生徒がいた。このような生徒の思いに焦点を当て、身近な人の役に立ち、感謝される経験を通して、生徒一人一人がやりがいを感じて活動に参加したり、相手を思いやる気持ちを育んだりすることを目指し「お役に立ち隊プロジェクト」という単元を設定した。

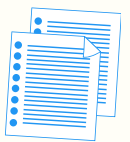


<授業者のしかけ>

実態に応じたワークシートの活用

～意見や感想をもち、自分の言葉でまとめる姿を目指して～

(クイズ) グループの発表について				
①発表はどのくらい楽しかったですか？1から5の中から気持ちに合うものを選びましょう。				
とても楽しかった	楽しかった	つまらなかった		
5	4	3	2	1
②どんなところが楽しかった(つまらなかった)ですか？				
5 クイズが楽しい。				



<生徒の様子>

- 生徒の実態に応じてワークシートを2種類準備し、一人一人が自分の言葉で意見を記入できるようにした。グループでの話し合い活動の前に意見をまとめることができたことで、グループのリーダーを中心に活発に意見交換する姿が見られた。

(クイズ) グループの発表について	
よかった点	改善点 (発表をもっと楽しくする工夫)
ハキハキと話していたのでよかったです	もっとあがるクイズを出した方がいいと思う 全員が盛り上がるように作る クイズ



<授業者のしかけ>

話し合い活動場面のグルーピングの工夫

～生徒が主体的に参加し、話し合いを進める姿を目指して～

<生徒の様子>

- 発表を見た意見や感想をワークシートにまとめた後、3つのグループに分かれて話し合い活動をした。大きな集団の中では自分の考えを伝えることが難しい生徒が積極的に発言したり、友達の意見に耳を傾けたりする姿が見られた。また、友達の意見を引き出したり、まとめたりすることをねらう生徒を各グループに配置したことで、教師の支援を減らし、生徒たちが自主的に話し合いを進めることにつながった。



<授業者のしかけ>

「キーワード」でまとめる

～話し合いを深めるために～

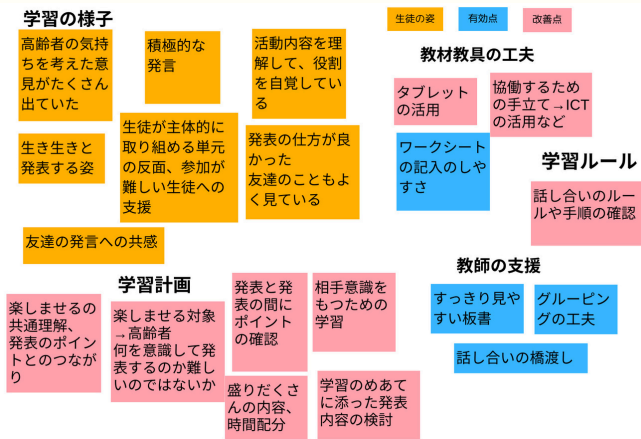
<生徒の様子>

- グループで出た意見を「キーワード」という形でまとめ、他のグループの提案する活動を設定した。「よかった点」「改善点」について出た意見を箇条書きするのではなく、自分の意見と友達の意見の共通点や違いに気付いたり、具体的な意見になるように言葉を付け加えたりしながら、グループとしての意見をまとめようとする姿を引き出すことができた。



ダンスグループの発表について		キーワード
話し合いメモ		
<よかったところ>		振りつけが良かった 楽しかった 重きを合わせる アビール
<ul style="list-style-type: none"> 振りつけが良かった。→ダンスの振り付けが良かった。 みんな笑顔で楽しんでいた。 曲に合わせて動いていた。 みんなよく聞いていた。 みんなよく楽しんでいた。 		
<改善点>		
<ul style="list-style-type: none"> 歌詞を覚えるまでにはまだ時間が必要。 歌詞を覚えるのに時間がかかった。 歌詞を覚えるのに時間がかかった。 歌詞を覚えるのに時間がかかった。 アビールがまだ覚えない。 		

生徒たちが協働して課題解決に向かうための支援の工夫について



【協議で話題になった主な内容】

- ・高齢者が楽しむものを考えることはよいが、高齢者のイメージが生徒によって違う。
- ・話し合いの時間確保のために、ワークシートの工夫、付箋活用などやり方はまだありそう。
- ・まとめの時間配分を考えた授業の計画が必要ではないか。
- ・生徒同士の話し合い、グルーピングが工夫されており、もっと生徒たちで進められそう。

【今後に向けて】

- ・話し合いの中で話す、聞く、書くなど話し合いのルールが決められるとさらによい。
- ・高齢者の方についてもっと詳しく知ること、自分たちに何が出来るかにつながる。
- ・生徒の意見をつなぐ教師の支援があると、話し合いが深まるのではないか。



講評 秋田大学教育文化学部 教授 前原 和明先生

- ①授業の題材としての価値**
 - ・他者を楽しませることは重要。高齢者のために、問題解決をどうしたらいいのかが、主体性を引き出せる題材になっている。工夫点やよかった点、改善点などを先生方が議論していた。
- ②将来の社会参加に向けての価値（問題解決力、社会への生活力、生涯学習力）**
 - ・私たちは、社会参加するための力は無意識に、なんとなく身に付けて、難なく実行しているが、根底には包括的、総合的なスキルから構成されている。
 - ・知的障害のある人は無意識的に身に付け、実行することは難しい。この力を身に付けると、職場の中でチーム作業すること、報連相をすること、困ったときに誰かに相談して課題解決を図ることが達成できる。
 - ・今回の授業の中では無意識的に実行できていて、総合的、包括的スキルを身に付けるきっかけが含まれていた。要素としては「高齢者のためにできること」という問題解決場面や、小さなグループで議論する中で、身に付けるきっかけがたくさん含まれていた。
 - ・将来の社会参加に向けて問題解決のための型を学習できればよい。何が問題で、どこからアプローチするのか、他人の力を借りながら問題解決していく型が学習できると将来の社会参加に向けて役立つ。
- ③指導案のピクトグラム**
 - ・指導案にピクトグラムがあり、具体的な型を明示し、先生方が共通理解するためのきっかけになっている。問題解決の型を整理し、生徒も意識して型に取り組む練習をすることで、型にはまりながら現場実習などで問題解決できればよい。ピクトグラムの視点が、先生方や生徒の姿がどのように将来の社会の中での力につながっていくのかまでイメージできると、ピクトグラムの共通理解が達成できる。表の意味は高齢者のためにだが、裏の意図としては問題解決力や社会への生活力を作っているのだと共通理解できればよい。
- ④グループにおける活動**
 - ・知的障害のある人は個別や社会の経験などに依存するので、共通すべき価値観が多様だと思う。目的をどのように共有しながらグループワークしていくか考えられるとよい。問題解決する主体、話す人を中心に構造を考えがちだが、聞く人もいることを意識すべき。どのようにグループワークを運営していくのか、聞くための構造やルールも学べると、社会に出てやりとりをして作業したり暮らしたりすることにつながる。やり方、手続き、実践の力も作り上げていければよい。授業の展開、ワークシートの作り込み、グループワークの進め方やルール設定、問題解決のスキルを身に付ける構造を作り込んでいけると将来に向けて、社会参加したあとにも解決していくための、社会で暮らしていくための力が付くのではないか。